

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770400073		
法人名	有限会社 COM		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ		
所在地	輪島市山本町矢本前17番地2		
自己評価作成日	令和2年8月25日	評価結果市町村受理日	令和3年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	令和2年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅や馴染みの場所へ外出支援をし、外での食事・買い物と個別にケアプランに入れ実行している。家族や馴染みの人との係わりを持てるように窓越しでの面会やオンライン面会等の設備も導入している。それぞれのできる事を生かし役割を持ち利用者同士助け合いながら楽しみを増やし、表情豊かに暮らせる努力をしている。重度化し病状の安定していない利用者は、食事面や水分量の検討を重ね、医療との連携の中で少しでも良好な状態を保てるようにしている。研修などを充実させ、質の高いケアを行えるようにしている。 月1回カンファレンスでコミュニケーション勉強会を行い、その中から行動目標を決め自己評価、他者評価を行っている。また理念の読み合わせも行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

例年通りであればいつでも利用者と一緒にドライブに出かけたり、買い物に出かけたりと馴染みの人や場との関係に配慮した支援を行うのであるが、今年はコロナウイルス感染症のため、外出は医療機関の受診以外は原則中止している。そのため外部からの訪問販売が、利用者の楽しみとなっている。コロナウイルスに関する家族アンケートでは、会いたいのはやまやまでであるが、安全対策を第一に考えている施設に対する理解が見られた。食事を楽しむ支援として、職員と利用者が一緒に食材の下ごしらえをしたり、食事に関わる会話を楽しんでいる。また、嫌いなものリストを作り、その日の献立が嫌いな方には別のものを提供し食事を楽しんでいる。今は外に出かけることが難しいので、玄関前で野外食をして楽しむこともある。玄関先ではあるが、やはり外に出ると気分が変わらしく喜んでる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者も職員も理念を共有し、理念の実践に向けて取り組んでいる。認知症対応型通所介護の通所者との交流も行っている。中重度の要介護状態になってなるべく環境を変えず、住み慣れたホームで生活が出来るように実際上支援している。パンフレットの中にも地域で暮らす視点を盛り込んでいる。	理念はパンフレットに記載されている他、事業所内にも掲示が行われている。理念の共有のために、職員会議やカンファレンス時に読み合わせを行ったり、新入職員が入った時には必ずオリエンテーションで管理者が理念について説明している。また、理念を実践するために毎月テーマを決めて勉強会を開催して、利用者が「その人らしく」生活できるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週1回の地元のパン屋さん・魚屋さんの訪問販売月一回のお菓子屋さんも来られ交流している。地域の方のボランティアによる新年会も行われている。ひまわりカフェで地域の方の参加や相談の場を設けているが現状はコロナの影響でなかなか開催する事が難しくなっている。	今までは町会の行事や、地域交流を盛んに行ってきたが、今年はコロナウイルス感染症のため昨年のようなつきあいは行われていない。しかし、その中でも職員は工夫しながら地域との交流を図っている。訪問販売の業者さんは今のところ、利用者が唯一外部の人と交流できる場であり、魚やパンやお菓子、牛乳等の買い物を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型連絡会が発足し同業者で勉強会を開いており、家族にも開放した勉強会を行なった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価や外部評価の提示、グループホームの利用者の状況を報告し、意見交換やアドバイスしてもらっている。行事等参加や施設内のメンタルヘルス学習会にも参加してもらった。	今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、職員のみ参加による会議となり、他のメンバーには報告書を配布している。会議ではひなたぼっこのコロナウイルス感染症対策、利用者の状況について、身体拘束等検討委員会、今後の予定等について報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居待機状況や事故報告、退所後の困難ケース等で相談を要するケース等も相談しながらすすめている。運営推進委員会の報告、ポイントとなった点について報告する。自己評価、外部評価を報告し頻回に相談・連絡を行っている。	今年度はコロナウイルス感染症のため、行政の研修等は中止が相次いで外部研修の参加はないが輪島市の地域密着型サービスの連絡会は2回開催され、参加している。行政との連絡もコロナ対策が中心となっていて、家族の面会規制についての問い合わせをおこなったり、利用者に関する事故報告をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を作成し各ユニットに掲示して全員で拘束をしないケアに取り組んでいる。カンファレンスで身体拘束の勉強会も行っている。家族やひ孫さんの面会、買い物、散歩、ドライブにでかけたりすることで家族に会いたい思いや外に出たい思いを満たされるように努力している。	ひなたぼっこ身体拘束禁止規定が整備されて、身体拘束等適正化委員会も年に4回開催している他、施設独自のポスターを作成して事業所内に掲示し、また毎月、不適切ケア防止のためにコミュニケーションの学習会を開いて事業所全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員が普段何気なく行っていることが、不適切なケアや虐待につながるように「不適切ケア防止トレーニングシート」を使い、ケアのチェックをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を行わないよう、指針を作成して職員で見過ごさないように取り組んでいる。言葉の虐待を行わないようにカンファレンスや全体会議等で言葉遣いのマニュアルを読んでふり返っている。研修会等に参加している。職員間もみんな意識しながら行動している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が成年後見制度の研修にも参加し、学んだ事を他の職員にも伝えて学ぶ機会を持っている。GHの社会福祉士が第3者後見を行う活動をしており、成年後見制度利用支援も行っている。職員会議でも学習する予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、疑問点にも答えている。また、気軽に相談にのれる体制である。今年度4月の介護報酬の改定時も説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価にともなって家族にアンケートを行い、意見や要望を業務に反映している。運営推進会議で家族も自由に意見を述べている。家族の面会時意見や要望を聞いて業務に反映している。	通常であれば、家族と常に連絡を取り合ったり、面会時にはゆっくりと話し合い家族意見を聴取するところであるが、今年はコロナウイルス感染症のため、家族の面会は限定的に行わざるを得なく、十分に家族と話し合うことが出来ない状況となっている。ただ、毎年実施している家族アンケートの結果等から家族意見を聴取して、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の定期的な開催、業務改善委員会を設置し改善の提案をまとめ取り組んでいる。カンファレンス等でも必要な事は話し合い改善するようにしている。また、利用者の受け入れについてもケアマネージャーに事前に相談し職員にも情報を伝えながらすすめている。日々、状況が変わり決めていかなくてはならない事も増えているので、状態に合わせた運営方法を検討する。	管理者は、職員と同じシフト勤務を行っているのでも職員意見を聴取している。また、経営者もスタッフとして勤務しているので、同じくいつでも職員意見や提案を受けている。職員会議やカンファレンス、各種委員会、個別面接等様々な機会を活用して職員とのコミュニケーションを図って、運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断の実施、その後の結果で要検診の人には受診をするように働きかけている。努力や実績、勤務状況については把握し必要と思われる研修等に参加してもらおう等を行っている。労働組合がある為労働条件については協議しながらすすめている。就業規則も守っており、変更にも柔軟に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の段階に応じた研修に参加している。自己評価も取り入れ自分の意識や知識をチェックする機会をもち、それぞれの興味にそった研修の参加も行っている。会議の報告は回覧しており、重要な事は伝達し研修している。パートやアルバイトの方も研修に参加してもらっている。新人研修では介護技術、医療の分野等行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡会が発足し同業者で勉強会を開いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の見学、または本人宅を訪問したり、直接会う等をして、本人の不安を取り除き、本人の思いを聞く機会をつくり、受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談によく話しを聞くようにし、近くなってきたら確認のために聞き取りをする。入居してからは小まめに連絡をとるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談ですぐには行えない時はその方の状況に合わせて、他のグループホームを紹介したり問い合わせを行ったりしている。また他のサービスを利用されている場合はその状況を含めてケアマネージャーさんと相談したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から人生の機微について学び、ふきの処理の仕方等教えてもらっている。年長者の絶妙な話に励まされることは度々ある。互いに支えあいながら暮らしている。食事作りや洗い物洗濯干したために掃除等生活するうえで非常に頼りになる存在。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を報告しながら、認知症になる前の様子等情報交換を密に行っている。家族の思いも聞き、一緒に本人を支えるように努力している。家族便りに担当からのコメントを入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それぞれの事情や状態に合わせて、同級生や友人と食事会に出掛けている。自宅に帰り家族と過ごしたり、行きつけの美容院に行っている方もいる。家族とひ孫の面会であったり、デイの利用者さんと馴染みの人と交流を行っている。	例年通りであればいつでも利用者と一緒にドライブに出かけたり、買い物に出かけたりと馴染みの人や場との関係に配慮した支援を行うのであるが、今年はコロナウイルス感染症のため、外出は医療機関の受診以外は原則中止している。そのため外部からの訪問販売が、利用者の楽しみとなっている他、職員が理髪をして利用者ですっきりした気分になってもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う合わないの関係を把握し、利用者同士の会話や言動に注意している。台所で一緒に洗物をしてもらっている。関係がスムーズにいくよう座席の配置しよくいんは会話をまんべんなくみんなに振り一体感が持てる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に会った時は気軽に挨拶している。、入院後の行き先の確保などもケアマネジャーとして行っており、落ち着くまでは支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、日ター人ひとりの思いや、希望、意向の把握に努めて介護計画等にも盛り込んでいる。毎月のカンファレンスでコミュニケーションの学習会をし、毎月の行動目標を設定し、言動の背景や原因を利用者サイドから捉えられるように努力している。家族からも意見や要望も聞きながら、本人にとってどうすればいいか、家族や職員と一緒に検討している。	利用者の言葉にしづらい思いを把握するために、毎月カンファレンス時にコミュニケーションの勉強会を行っている。利用者ひとり一人の希望を聞き出して、希望に沿ったケアが行えるように努めている。利用者のちょっとした表情や、楽しそうにしている様子をよくとらえて申し送りやカンファレンス等で職員が共有して本人本位のケアができるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方は、継続したかわりの中から家族や親戚や本人から情報を聞き把握出来ている。またアルバム、家族の写真、犬の写真など部屋に飾っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らし方や体調の変化など必ず申し送り、把握している。出来ること出来ないことを見極め、ケアプランに沿って実行できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式の中の活用部分を決めて、職員で検討し、介護計画に生かしている。またターミナルなどのケースについては、家族を交えた介護計画の充実を図っている。行動目標に個人への関わりをあげ、自己評価・他者評価を取り入れモニタリングをしやすいようにしている。	アセスメントは計画作成担当者と利用者の担当が協働で行って、毎月のカンファレンス時にサービス担当者会議を行い、計画を周知している。モニタリングは3か月に一度行い、計画もその都度更新している。記録は、バイタルやサービスの記録とケース記録がある。ケース記録にはケアプランの番号を記してプランと整合性がとれる記録になるように配慮されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートに記入した上で申し送りをし情報の共有は図られている。また、介護計画に沿った記録の書き方を徹底するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの利用者と通所の方が交流したりして支援の幅を広げている。グループホームの入居者は、主治医と協力してホームの看護師で処置や点滴を行う等、入院による環境の変化を避ける対応を行っている。継続入院が困難な場合は早期の退院で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員に地域の方が入っており、地域行事の参加等すすめてくれている。消防署は避難訓練時、毎回指導に入っている。救命救急講習会も開催してもらった、公民館行事に参加したり、公民館行事でホームに訪ねてもらおう等の交流がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の関係もあり、内科は事業所の協力医療機関の医師にかかってもらうように説明し納得を頂いている。従前のかかりつけ医には紹介を頂いている。必要に応じて他科の受診を行い、必要時には家族にも通院に同行してもらったり、付き添いをしてもらっている。	かかりつけ医は、家族の同意をもらって入居時に近くの診療所に変更している。診療所は毎週往診してくれ、内科と整形が専門でそれ以外の受診の時には紹介状を書いてもらい、他の病院(主に市の総合病院)に受診となる。受診の際には、事業所で通院介助を行っている。歯科も往診してくれるところがあり、利用者にとって便利な環境となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの職員に看護師がおり日常の健康管理や医療支援を行っている。また協力機関の看護師に気軽に相談でき医療に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関のオープンベッドを利用して入院することも多く、かかりつけ医が病院に様子を見に行く事ができる。また、入院時に病院への情報提供を行ったり、病状等を確認する等の情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する以前に本人と家族に希望を聞いている。病状の変化については、早めに主治医や家族と相談を行っている。その人その人の医療依存度の問題があるため、早めに栄養評価を受けたり、紹介を受け他科への受診や検査を受け、変化に対応している。またその状況についてや方向についてはケアマネージャーや職員と家族が共有するようにしている。看取りマニュアルを作成し、家族に説明している。	昨年10月にも1件の看取り事例がある。その際には、ひなたぼっこ看取りマニュアルに基づいて家族に説明し、主治医から症状などの説明を受け、看取りケアについての同意書ももらっている。急性期や重度化に対応するために、看護師を配置し、医療機関との連携体制を強化して医療連携加算を算定している。また、介護福祉士の配置も50%を超え手厚く、重度化に対応できる体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒、窒息等の対応に学び、緊急対応の研修に参加し全員で学んでいる。本人の状態に合わせて誘導する、浴槽の滑り止めマットを使用、食事の内容を変える、移動手段を工夫するなどして事故を防止するようにしている。マニュアルを作成し常に学習している。連絡体制も整備している。またヒヤリはつとがあり活用している。AED設置し対応できるようにしている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	利用者さん「緊急対応マニュアル」をユニット毎に置きいつでも見られるようにしている。緊急事態に対応する体制を整備している。	緊急対応マニュアルは、「業務マニュアル」や「マニュアル集」の中にファイルされ、「利用者さん急変時対応」、「感染防止」、「誤薬防止」、「緊急時連絡網」などが作成されている。マニュアルの周知のため、月1回机上訓練を行い、緊急時の職員の行動確認を行っている。マニュアルの見直しも、随時行われている。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	主治医が週一回往診し、日頃から利用者の様子を把握している。必要に応じ24時間電話で指示を仰ぐ事が出来る支援体制が確保されている。	協力医療機関は、輪島診療所や市立輪島病院、市内の歯科医院である。利用者には入居の際に、入居後は輪島診療所の医師が主治医になることを説明し入居してもらっている。輪島診療所とは、1年を通し、終日連絡が可能である。医師は週1回往診に来て、利用者は月1回診察を受けている。薬は、薬局が届けてくれる。歯科医院は、連絡をすれば往診してくれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	ユニット毎に夜勤者が配置され緊急時に対応できる体制になっている。また、4人の職員が近隣に住んでおり、連絡を受け三分～五分以内に駆けつけることができる。また、主治医とは24時間電話連絡が可能で指示を仰ぐことができ、緊急時に対応できる体制になっている。	夜間帯の緊急時の対応は、夜勤者が看護師に連絡を入れ指示を受けている。必要な場合は、看護師は医師に連絡し、医師の指示を夜勤者に伝えている。そのため、基本的には救急車を呼ぶかどうかは、医師の指示を受けている。救急車を呼んだら、当日中は遅番職員が出勤する。深夜0時を過ぎていれば早番の職員が出勤することになっており、緊急時の対応体制が整備されている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練や設備点検を実施している。防災訓練の時は運営推進会議も持ち、地域の人達が体制のチェックをしてきている。また、毎回消防署員が来て指導を得ている。月1回机上訓練を行っている。	「ひなたぼっこ消防訓練実施要領」が夜間帯、日勤帯に分けて作成されている。この訓練の実施要領に基づき、防災訓練に取り組んでいる。防災訓練は、令和元年10月に消防署立ち合いで実施している。毎年2回防災訓練を消防署立ち合いで実施していたが、今年は新型コロナウイルスの影響で、令和2年3月に事業所単独で実施している。但し、通報訓練は消防署と実施している。消防設備点検も年2回実施している。また、月1回事業所として机上訓練を実施し、職員の緊急時の行動確認を行っている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	輪島市防災マニュアル(地区毎)の他、独自の防災マニュアルを作成し、マニュアルの基づき訓練を実施している。また、備蓄品リストが作られ、リストに基づいて備蓄品を確保し、利用者の安全確保のための体制が整備されている。	マニュアル集の中に、「輪島市防災マニュアル(地区毎)」や「ひなたぼっこ防災マニュアル」、「高齢者施設における防災計画作成指針」などがファイルされている。「ひなたぼっこ消防訓練実施要領」を作成し、マニュアルに基づいた訓練の実施に取り組んでいる。また、備蓄については、備蓄リストが作成されている。保存食、保存水、防災用品、応急セットなどが備蓄されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いがマンネリ化しないよう定期的に接遇研修を行い振り返りながら意識づけを行っている。誇りやプライバシーを損ねないような対応をしている。時々方言を使いわかりやすいようにしている。	「認知症ケアマニュアル」、「ひなたぼっこ倫理綱領」、「ひなたぼっこ身体拘束禁止規定」、「看取りケア」などのマニュアルが作成され、マニュアルの趣旨に沿った支援に努めている。日々の支援では、特に一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮している。そのため、その人の考えや思いに寄り添うように心がけている。また、利用者の個人的なことは他者には話さない。面会時は、その時の状況に応じて自室や会議室を使ったりしている。そして、毎月10分間コミュニケーションの学習会を実施している。この学習会を通して、自分たちの介護の振り返りを行い、利用者一人ひとりの尊厳を尊重した介護に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせ、その人の考えや思いを自分から表現出来るような働きかけをしている。見たい番組やビデオを選んでもらう、また、意思表示が出来ない人であっても表情を観察しながら、本人の希望を支援している。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常よりコミュニケーションを取り、行動を見守りながらそれぞれにできる事を見極めていって、自発的な希望が見つけられるように関わっている。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容は本人の希望の所へ出向いている。行くことが困難な方には、美容室の出張を利用している。また服装を本人と一緒に選びおしゃれができるように支援している。外出する時は服装に気を付け本人の希望の服装をして頂いている。眉墨をかいている利用者さんには支援している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から後片付けまで個々にあったお手伝いをさせていただいている。利用者の方、職員とも食事時間を楽しみにしている。季節の旬の食材を使い季節感を大切に献立や調理方法を聞いたりして、、楽しい話題作りをしている。週1回順番に利用者の好みを聞いたり、好き嫌いのある方には、嫌いな食べ物のリストを作成し別の物を提供し食事を楽しんでいる。天気の良い日に野外食事で楽しんでいる。個々の状態に合わせ食事形態を工夫している	献立は、職員が交代で1週間分作成している。利用者に食べたいものを聞いたり、旬のものを入れたり、メニューが偏らないように配慮している。皆さん食べることが好きで、食材の下ごしらえをしたり、食事に関わる時間はいろいろな会話が出来る楽しい時間となっている。嫌いなもののリストを作り、その日の献立が嫌いな方には別のものを提供し食事を楽しんでいる。また、玄関前で野外食をして楽しむこともある。玄関先ではあるが、やはり外に出ると気分が変わるらしく皆喜んでいいる。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食チェックしており、水分量も把握している。摂食が困難になってきた場合は栄養補助食等を使い目標のカロリーを決めて取り組んでいる。水分は本人の好みに応じて好きな飲み物やゼリー等によってもとってもらっている。また、利用者の食べたい物をメニューに取り入れたり、食器は一人一人自分の食器を使用するなど工夫をしている。定期的に献立や食事・水分量が適切か見直しをしている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄うがいをし、定期的にポリデントも使用して一人一人の状態に合わせ介助をしたり声かけをし、口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、タイミングをみてから現状で必要な排泄支援を行っている。プライドが傷つかないように配慮し、なるべく便器に座って排泄できるよう工夫している。	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを把握し、タイミングよく声かけし、トイレで排泄し、失敗を防ぐように努めている。失禁している方の介助の際は、耳元で声かけし、他の利用者に失敗したことがわからないよう、本人のプライドを傷つけないように配慮している。また、介助の際、ずっと一緒にトイレにいるのではなく、便座に移乗したら職員は一度トイレから出て待つなどして、一人ひとりの力を活かすように配慮している。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給は時間を決めて定期的に飲んでもらっている。便秘症の方には、繊維質のある野菜等をメニューに取り入れている。乳酸菌の飲み物やヨーグルトを摂取していただく等予防に努めている。なるべく自然排便を促すように努力している。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて曜日や時間に問わず入浴をしていただいている。入浴を拒む方には、無理強いすることなく本人の意向や言葉がけの工夫をしている。毎月リフト浴の日を決めなるべく浴槽に入れるよう支援している。	本人の希望やタイミングで入浴してもらおうよう努めている。5～6名がデイサービスのリフト浴を利用している。この5～6名は、ホームで入浴する場合はシャワー浴で対応している。また、一人で浴槽につかれる方には、本人の好みの湯加減で、ゆっくり入ってもらっている。そのため、浴槽に入ったあとに、本人に「後で来るね」といって、浴室の外から本人の様子を見守るようなこともしている。あるいは、職員と二人になると良く話しをする方もいる。そのような方とは、コミュニケーションを取るよい機会なので本人の話をゆっくり聞くようにしている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷房や暖房の設定温度や入れたり切ったりする時間に心配りし、安眠できるよう配慮をし、日中でも部屋で昼寝が出来るよう声掛けを行っている。寝具は季節に応じた物を使用しシーツ・包布はいつも清潔にしている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方に関するファイルはあり、いつでも職員がみられるところにある。また、内容についてもカンファレンスの時に学習会を行っている。また状態を日常の記録に残して医師へ情報提供し治療に活かしている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換にドライブ、散歩、外に出る機会を多く作っている。その方の趣味、得意とすることを生かし役割を持っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時々ドライブに出掛けているので、その都度希望を聞いたりして行っている。馴染みの美容室に行かれる方や、行事としてお花見に出掛けた。買い物、散歩、ドライブ等その方の状態に合わせて支援している。外出を好まない方も車椅子で散歩している。また美術館等、戸外の空気を楽しんでいる。	気候の良い時期は、ホーム近くを散歩している。あまり外出したくない車椅子の方も一緒に散歩している。また、週1回日曜日にはドライブに出かけている。どこに行きたいのかその都度聞いたり、馴染みの場所に出かけたりしている。桜の時期は、市内の桜の咲いているあちこちに出かけている。市内の公立美術館の無料鑑賞の案内があり、数回に分けて出かけている。できるだけ外出の機会を作るように努めている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る人は、買い物に出掛けて好きなお花を買ったりしている。買い物時に皆なおやつを選んでもらい支払いする支援をしたりしている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば家族の方に電話をしている。また意思表示ができない方でも、その時の状態を見て話しができそうな時は職員が家族の方に電話をして会話をしている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の花や壁飾り、置物などを工夫している。照明や光も適度であり居心地よく過ごせるようになっている。玄関先や窓際に花や野菜のプランターを置き、畑の花が見えて季節感を楽しめるようになっている。ベンチを設置したりして親しみやすい雰囲気になっている。リビングから外の景色を見ながら季節や人、鳥の動きをたのしんでいる。	日中はリビングで過ごす方が多い。日中のリビングでは、洗濯物たたみや食事の下ごしらえ、ぬり絵をしたり、新聞や雑誌を読んで過ごしたりしている。リビングの壁飾りや置物なども、ひな祭り、端午の節句の兜、七夕飾り、地域の祭りの飾り、クリスマス、お正月など、季節の行事に合わせて変えられ、季節を感じられるように配慮している。また、前の庭でプランターで野菜を栽培したり、畑でサツマイモを栽培し、利用者の方と一緒に畑作業も行っている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置を工夫したり、一人用の椅子を配置したりしている。玄関ポーチや玄関にも座れるところがあり、気の向くまま利用者は活用されている。また、二階のソファで一人になれる場所もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やテレビを相談しながら持ってきてもらうようにしている。それぞれのその人らしい部屋になっている。	ラジオやテレビ、湯飲み、好みのタオル、布団など、馴染みのものを持ち込んでもらっている。朝の掃除の際に、1日1回は居室の換気を行い、日々室温、湿度、換気に配慮し、清潔を保持し、快適に過ごせるように努めている。また、ベッドの位置や荷物の配置などは、トイレに行きやすいようになど、動線が確保できるよう配慮している。ただ、基本的に居室はプライベート空間なので、居室に入るときは声をかけて入るよう心がけている。また、掃除するときは、可能な限り物を動かさないで行うよう配慮している。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	間違えやすいところには表示を行い、状態に合わせて声掛けや誘導を行い混乱を防ぐよう工夫している。		